



## グローバルビジネスコース（GBC）レポート

令和4年9月第5号

ごあいさつ

私たちは、2022年9月に新たな学生を迎え入れます。これでGBCは4月入学者と9月入学者の4学年がそろいます。4つの学年がそろおうというだけで、この2年間、学生やスタッフがした大変な苦勞を考えると、感慨深いものがあります。

コロナウイルスという感染症の発症によって、国境が閉ざされたり、開かれた国境の門も狭いものになったりしました。そこをこじ開けたスタッフ、そして、スタッフがこじ開けた隙間を通して日本に来た学生の皆さんに感謝しております。学生の皆さんには、日本の大学に学生として所属しているにもかかわらず、それぞれの国で待機し、オンラインで授業を受けてもらいました。これは、私たちにとってつらい経験でした。ただ私たちはいつもポジティブな姿勢を失わなかったと思います。その証拠に、この経験から私たちは多くのことを学びました。私たちは、コロナ前より、少し賢くなったと思います。

私たちのポジティブな姿勢は、「いつも心に太陽を持って」というツェーザル・フライシュレンの言葉とシンクロします。私たちは、これからも、彼の詩によって励まされた人と同じように、ポジティブな姿勢を維持していきます。「勇気を失うな。くちびるに歌を持って。心に太陽を持って。」というフライシュレンの言葉を胸に、世界に対して開かれたGBCの完成を目指して進んでいければと思っています。

兵庫県立大学国際商経学部長 山口 隆英 (Takahide Yamaguchi)

### 『心に太陽を持って』

Cäsar Flaischlen (山本有三訳)

心に太陽を持って。  
あらしが ふこうと、  
ふぶきが こようと、  
天には黒くも、  
地には争いが絶えなかりと、  
いつも、心に太陽を持って。

くちびるに歌を持って、  
軽く、ほがらかに。  
自分のつとめ、

自分のくらしに、  
よしや苦勞が絶えなかりと、  
いつも、くちびるに歌を持って。  
苦しんでいる人、  
なやんでいる人には、  
こう、はげましてやろう。  
勇気を失うな。  
くちびるに歌を持って。  
心に太陽を持って。

(山本有三 1981 『心に太陽を持って』 新潮社より引用)

令和4年4月に開設から4年目を迎えたGBCでは、一般入試による4月入学者48名を4期生として受け入れています。4月5日に、昨年度9月に入学した留学生43名と一緒に、初めての共同開催で神戸国際会館において兵庫県立大学入学式を行いました。現在では、GBCに在籍している留学生は18カ国・1地域から計114人としています。男女別留学生数を見てみると男子学生54名、女子学生60名です。地域別留学生数を見てみると、アジアからの留学生が占める割合は依然と高い。東南アジアからの留学生の数は最も高く71名でGBC全留学生に占める割合は62.3%、続いて東アジアは17人(14.9%)、南アジア15人(13.2%)、アジア以外の国はベラルーシ、メキシコ、ルーマニア、トルコ、ザンビア及びジンバブエの合計11人(9.6%)です。

この春以降新型コロナウイルス感染症の緩和にともない、昨年度9月に入学したものの、来日できなかった留学生はこの春から徐々に来日しました。来日できなかった留学生33名全員が、5月29日までに来日でき、国際学生寮で新たな生活をスタートさせました。また、新型コロナウイルス感染症の緩和とともに、大学で多くの授業は対面型授業に切り替えましたが、4月当初未入国の留学生向けに、オンライン授業とハイブリッド型に引き続き行っていました。

## 1.GBC留学生の概要

国・地域名	2019年9月入学			2020年9月入学			2021年9月入学		
	在籍者数	男女構成		在籍者数	男女構成		在籍者数	男女構成	
		男性	女性		男性	女性		男性	女性
バングラデシュ	2	2					1	1	
ベラルーシ							1	1	
ブータン	1	1							
カンボジア							1	1	
中国	1		1	2	1	1			
インド	1		1	1	1		4	2	2
インドネシア	7	2	5	6	3	3	5	1	4
マレーシア				3		3	1		1
メキシコ							1	1	
モンゴル							2	1	1
パキスタン				2	2		3	2	1
フィリピン				1	1				
ルーマニア	2	1	1	1	1 <sup>※</sup>		3	1	2
タイ	14	7	7	4	1	3	10	4	6
トルコ	1	1							
ベトナム	6	4	2	6	3	3	7	3	4
ザンビア				1	1				
ジンバブエ							1	1	
台湾	5	1	4	4	1	3	3	1	2
計	40	19	21	31	15	16	43	20	23

令和4年8月1日現在

## 2. 授業関連

### 1) 日本文化体験について

令和4年度前期の日本語文化体験プログラムでは近隣の学校訪問、和菓子製造及び販売となっています。近隣の学校訪問について、GBCの留学生が兵庫県立小野高等学校を訪問し、書道、茶道、箏の演奏を体験しました。GBCの学生たちは、日本の高校生との交流を通じて、日本文化について多くのことを学びました。



学校訪問-茶道体験（令和4年4月）



学校訪問--書道体験（令和4年4月）

和菓子製造の授業について、高山堂の代表者は、和菓子と駄菓子の歴史的な展開や現代のビジネスの動向を学生に教えました。また、GBCの学生たちは、母国の伝統的なお菓子についてのプレゼンテーションを行い、消費者の嗜好の違いや共通点を明らかにし、お菓子の輸出入に関するアイデアを提案しました。さらに、高山堂株式会社と兵庫県菓子工業組合の協力を得て、和菓子の専門家と製菓業者は、GBCの留学生に、桜もみじの2種類の和菓子作りを教え、ほとんどのGBC生がすぐに新しい技術を習得し、見事な作品を作り上げました。和菓子販売の授業について、姫路市にある日本の伝統的な和菓子や駄菓子の店をたくさん訪れました。特に主要な観光地周辺で、お菓子の販売とマーケティングのプロセスについて学びました。



和菓子製造及び販売の授業（令和4年6月）



### 2) 語学関係授業について

国際商経学部「グローバルビジネスコース（GBC）」では、4月入学の日本人学生向けに、学内における8週間の英語集中講義及び8月から9月にかけてフィリピンのエンデラン大学で5週間の海外英語研修を実施する予定です。なお、新型コロナの影響により海外渡航が困難な場合は、国内において代替科目を実施する予定です。

また、6月10日、GBC2022年4月入学生を対象に、フィリピンで英語研修の説明会を開催しました。英語力の向上に加えて、学生に新しい価値観と仲間との絆を持つ多文化環境に触れることで成長することが期待されています。



英語研修説明会（令和4年6月）

### 3. イベント関連

#### 1) クリーンアップイベント

5月17日の夕方に、38人以上のボランティア GBC 学生がクリーンアップイベントに参加しました。このイベントは、キャンパス周辺のコミュニティへの貢献の一環として、RA と GBC アドミンオフィスが主催する定期的なイベントです。学生は3つのグループに分けられ、神戸商科キャンパス周辺の通りを清掃しました。日本人学生と GBC 留学生のみんなが、社会に貢献し、環境を保護することに尽力しています。



#### 2) ヴィーガン&ハラールウィークイベント



ウズベキスタン学生との交流

行われました。ウズベキスタンの学生たちはオンラインで参加しました。最終日である7月7日のプレゼンテーションの最後に、クイズの優勝者にハラールフードなどを賞品として渡しました。イベントの参加者全員がセッションを楽しみ、ヴィーガンとハラールについてより深く知ることができました。

クラブメンバーの9割が GBC 学生である本学のサークルグループ S&I クラブは、7月4日～7日にヴィーガン&ハラールウィークのイベントを開催しました。イベントでは、ポスタークイズ大会やウズベキスタンの方とのおしゃべり会や、ヴィーガン&ハラールに関するプレゼンテーションが行われました。国際学生寮(i-Square)の1Fで、7月5日にウズベキスタンの方とのおしゃべり会、7月7日にヴィーガン&ハラールに関するプレゼンテーションが



ヴィーガン&ハラールプレゼンテーション

### 4. RA 関連

#### 1) RA の活動

国際学生寮に住んでいる GBC2 年次生は、RA として後輩である1年生の勉強や日常生活に対する支援を日々行っています。すでに入寮した留学生をサポートしながら、今後、入国が見込まれる留学生の受入れの準備を手伝っています。



新しい RA 授与式 (令和4年6月)

#### 2) 新しい RA 募集及び選考

GBC2021年9月入学生を対象に国際学生寮のレジデント・アシスタント(RA)を募集し、書類及び面接による選考を行いました。募集時期は4月28日～5月12日で、選考時期は5月23日～30日としています。今年の応募者はとても多く24名となります。それぞれのモチベーション、リーダーシップ、コミュニケーション能力など6項目から評価を行い、10名のRAを選出しました。6月15日に新規RAの任命式が行われ、新しく任命されたRAを国際学生寮のRAファミリーに迎え入れることができ、彼らは9月から正式に就任されます。

### 3) 現役 RA からのお便り

現在 RA を 2020 年 9 月入学した留学生と 2021 年 4 月入学の日本人学生で構成されています。2020 年 9 月入学した留学生 RA の任期この 8 月までとなっています。彼らは RA 業務を通して学んできたことや思いなどそれぞれのメッセージを紹介したい。

RA に就任して、とても大切にしていることのひとつは、後輩たちとのふれあいです。後輩たちがより快適に過ごせるように、自分の経験や知恵を伝えることを常に意識しています。そのために、日頃から彼らとコミュニケーションをとり、質問や相談にスムーズに答えられるように心がけています。(池尾駿希、日本)

この寮でみんなと一緒に生活することは本当に心温まるものです。RA として寮生のためにあらゆる仕事をし、感謝の気持ちを持ってくれて本当に嬉しいです。先生方とはあまり交流がありませんが、RA リーダーとは交流があり、自分のできる範囲でお手伝いをしています。負担をかけずに人の役に立てるのは嬉しいことです。新米 RA の皆さん、寮生活を楽しみながら、入居者さんのお手伝いも楽しんでくださいね。(サワディースクム・ドンナヤ、タイ)

GBC レジデント・アシスタントの一員であることは、最も記憶に残る経験です。私は、より多くの責任を与えられながら、より多様なバックグラウンドを持つより多くの友人とより多くの時間を過ごすことができると言うことができます。ここでは、将来寮のために交渉できる考えや提案を提供することで積極的に支援することができます。私たちは他の RA の助けを借りて寮を改善するために協力することができます。教授の協力なしには私たちのアイデアをすぐに実現することができなかつたので、私たちは教授との協力的なパートナーシップを楽しんでいます。(ムリヤディ・ヤスミン・ハイラサリマ・ラトゥ、インドネシア)



RA としての寮生活を通して、留学生を含む多くの学生と関わり、メンバーと共にみんなの寮生活をより良いものにする中で、自分自身の大学生生活を充実させることができました。国籍や背景が異なる人たちとの共同生活は決して楽なものではなく、時には問題に直面することもあります。RA がその手助けをすることができると考えています。(新島怜央菜、日本)

私はこの寮に 2 年間住んでいますが、寮生としてこの寮で生活することはとても楽しく、多くの文化を学ぶことができ、たくさんの友達を作ることができました。また、RA として、自分のスキルを活かして仲間と協力し、さらに、寮内での出来事や障害に対する解決策を考えるなど、創造性を発揮することができました。最後に、この寮はまだ新しく、この寮のコミュニティはまだまだ発展途上ですが、次の世代に頑張ってもらい、この寮がより良い結果になることを期待しています。(サーマサグン・タナンチャノック、タイ)

RA としての寮生活を送ることで、様々な経験をすることができました。一番印象に残っているのは、国の違いによる価値観の違いを感じ、話してみて分かり合えた時です。彼らとコミュニケーションが取れてとても嬉しいです。共同生活で自分たちの不満を伝えることで、相手の価値観を知ることができ、同時に自分の価値観も見直すことができました。(和田輝、日本)

レジデント・アシスタントになって1年、寮生と触れ合う中で、責任感、協調性、親しみなどを身につけることができました。内向的な性格の私は、レジデント・アシスタントとしての責任感から、人との付き合い方を改善することを学びました。寮や大学に関することはきちんと手配してルームメイトに伝え、彼らの大学生活の手助けになればと常に心がけています。また、RAと入居者の間だけでなく、RA同士でも助け合いが行われています。他のRAも、自分の責任はグループの仕事だけにとどまらず、他のグループに手を貸すことをためらわないことを常に示しています。私はこのようなRAと一緒に国際学生寮に貢献し、入居者の方々に少しでも安心していただけるような活動をするを楽しんでいます。最後になりましたが、新任の外国人RAの皆さんには、1年間の寮生活を有意義に過ごし、国際学生寮をより面白く、より楽しくするために、自分自身の力を発揮してもらいたいと思います。(フー・ウェニー・ワン・ニー、マレーシア)



私はラウンジで1時間半から2時間、数人の留学生に日本語を教えています。また、請求書やマイナンバーカードの登録の手伝いもしています。そのほか、寮の外でも日本のことをもっと知ってもらうために、日本の人々と交流する方法を考えています。さらに、寮の住居から得られる資金を、パーティーなどの特別な目的でRAリーダーと一緒に使うことも考えています。(サラマ・ニサット、ネパール)

RAになることで、寮生活を通常より一年多くを過ごすことができます。これにより、さまざまな文化を体験できるだけでなく、小さな文化の違いに気付くことができます。また、外国人と一緒に出かけ、通訳することなど、特別なことも経験しました。これまで学んだことを踏まえて、将来のRAはさらに素晴らしい経験になると思います。(水野僚哉、日本)

国際学生寮のアシスタントは、私の大学生活の中で最高の出来事の一つです。この仕事を通して、いろいろな面で人を助け、さまざまな国の友人をつくることができます。寮のアシスタントとして、私は普段、寮生活や勉強に関する問題を解決するために学生を助けています。例えば、授業のノートを見せたり、新入生にキャンパス内のものを教えたり、隔離されている学生を助けたりしています。また、RAから学んだことは、チームワークと自己責任です。私たちの寮にはたくさん入居者がいるので、入居者を助けたり、仕事を効率よく終わらせたりするために、チームワークが必要なのです。また、人によってスケジュールが異なるため、どのように仕事を分担し、自己責任を果たすかは、RAとしてとても重要なことだと思いました。最後に、新しいRAにメッセージを送りたいと思います。疫病の影響で私たちの生活には大きな変化がありましたが、これからも頑張ってください。しかし、寮での貴重な思い出を作るために、これからも頑張ってください。新しい友人を作る機会をつかみ、視野を広げ、できる限り人の役に立ちましょう。最後になりましたが、国際学生寮での生活を楽しんでください。(チェン・ユイー・ペイ、台湾)

最初に、この寮であと1年暮らせることに、どれだけ感謝しているかを述べたいと思います。本当に言葉では言い表せないほど感謝しています。次に、GBC寮の寮生をサポートしてくださったヤヒヤ先生に感謝したいと思います。彼は、私たちが必要とするときにいつもそこにいました。私たちをコントロールする権力者ではなく、私たちのチームの一員であると感じさせてくれたことは、非常に有能なリーダーの証です。(パット・シッダント、インド)



学生一人ひとりが寮を快適に過ごせるようにするのは難しいことを学びました。少しでも快適な環境にするために RA ができることには限りがありますが、様々なアイデアや解決策を考えてきました。RA の大きな魅力は、新しい出会いがあることだとも感じています。(西川夏海、日本)

RA になる機会を得たことで、私にとっては多くのネットワークが開かれました。世界各地から来た新しい人たちと出会い、いつでも交流することができます。(アナンタサ・ジェラルド・ファドリ、インドネシア)

私達 RA は国籍、学年問わず全寮生が楽しく快適な寮生活を送れるよう、最大限のサポートをしています。入退寮のサポートから始まり、寮生の勉学や私生活についての悩み相談、イベントの企画まで幅広い活動をしています。コロナ禍のため、細心の注意は必要ですが、ドームメイトと BBQ やたこ焼きパーティーをしたり、買い物に行ったり、楽しい日々を過ごしています。全く違う文化的背景を持った様々な国の生徒が集まるこの寮は、やはり価値観の違いからトラブルが起きがちです。しかし、その異文化交流が相手をより深く知る機会となり、寮生のグローバルな人間性を磨いているのだと感じます。寮で寝食を共にするということは、ただの友達というよりも家族のような関係だと考えています。一緒に生活してみないと気付けない異文化や共通点を知ることができるのは、この寮生の特権です！時にはトラブルもあるかもしれませんが、この寮で得た全ての経験が将来の宝になると信じています。(高橋伽菜、日本)

## 5. 海外派遣学生からのお便り

兵庫県立大学では、世界各国の大学と交換留学の提携をしています。コロナの影響で 2 年ぶりに海外派遣できなかつた交換留学が再開されました。2021 年～2022 年にかけて、GBC 学生からも交換留学に参加した学生がいますので、その様子を紹介します。

### 1) フランスからのお便り

GBC4 年でフランスのギユスターヴ・エッフェル国立大学に留学中のナカイエさんから、「今回の留学で得たものは、何にでも挑戦してみようという気持ちだと思います。私は積極的な性格ではなく、人前でプレゼンテーションをすることが苦手でした。フランスに来て、言葉や文化が全く違う国の友人とコミュニケーションをとるには、積極性が大切だと実感しました。また、授業はディスカッションやロールプレイが多く、日本の授業とはかなり違うので、慣れるまで大変でした。しかし、自分の意見をきちんと伝えることの大切さや、異なる意見から全員が納得する解決策を見つけることの難しさを学びました。未知の世界に挑戦したからこそ、今フランスでの生活を楽しめているのだと思います。フランスに住んでいてよかったと思うことは、他の国に旅行しやすいということです。フランス国内だけでなく、EU 圏内やイギリスにも簡単に行くことができるので、日本では得られない様々な経験をすることができます。後輩の皆さんには、ぜひ交換留学に参加することをお勧めします。来てみれば、その理由がわかるはずです。」



## 2) アメリカからのお便り

GBC4 年でエバーグリーン州立大学に留学中のタネイさんから「エバーグリーンは、人の多様性を学ぶのに最適な場所です。学生、教員、大学職員は国籍も年齢も様々で、LGBTQ+



の人もちらほらいます。人々は、たとえ自分の意見が他人と違っていても、自由に自分の意見が述べられます。それだけではなく、人の話を聞こうとする姿勢もある。このような環境から、私は、人はそれぞれ違って、みんな自分の選択を持っている、私は必ずしもいつも標準に従っているわけではない、ということを理解することができました。これは、私が経験を通じて学んできたことです。後輩にこのプログラムを絶対にお勧めします。留学することで、自分の国と他の国に行って勉強することを比較し、視野を広げることができます。自分の国と留学先

の国を比較することで、自分の国の良さを比較することで、自分の国と留学先の国の良いところ、悪いところが見えてきます。」



### お知らせ

#### GBC プロモーションビデオ近日公開！

2022 年度の GBC プロモーションビデオを新たに制作中です。今回は 1 年生から 4 年生それぞれの学年の学生が大学生活、交友関係、学業と部活バイトの両立、就活および卒業後の進路について語ってもらいます。

GBC の広報媒体は Instagram や Facebook などの Web ページのように、文章や画像が中心となっていました。2022 年度の新たな動画が近日中に公開されます。GBC 学生の日常的生活、キャンパスと授業の雰囲気をも十分に伝えることができる内容になっていますので、ぜひ一度ご覧いただければと思います。



#### 編集後記

このたび、GBC レポートの編集を担当することになりました客員教員の中国出身の潘建秀と、シリア出身のヤヒヤ・アルマスリです。国際学生寮に住み込み、寮生の指導を行いながら、GBC の講義も受け持っています。

作成：国際学生寮 Global House レジデント・アシスタント (RA) 一同  
編集：潘建秀、ヤヒヤ・アルマスリ